

オリックスはカジノ賭博事業から撤退せよ

2月14日、大阪府・市が行ったカジノ賭博事業の事業者公募にアメリカMGMとオリックスの共同グループが、唯一、参入のための資格審査書類を提出したことが明らかになった。カジノは刑法で禁止され、人の不幸の上に成り立つ明白な賭博事業である。私たちは万感の怒りをもって、この共同グループ、とりわけオリックスに抗議し、カジノ賭博事業から撤退することを要求するものである。

オリックスは祖業であるリースをはじめ、不動産、銀行、クレジット等の多角的金融サービス業をおこない、多くのファンに愛されるプロ野球球団＝オリックス・バファローズを運営している。オリックス・バファローズは”世界のイチロー”をはじめ幾多の名選手を輩出し、とりわけ1995年、阪神淡路大震災の際に「がんばろう神戸」を合い言葉にリーグ優勝を果たし、被災した市民を激励し、社会的に大きく貢献したことは今でも大いに賞賛されるものである。

今、幾年の変遷をへて、オリックス・バファローズは素晴らしい球団理念を掲げている。

「野球で、ファンに“感動”と“興奮”を届けます。

野球で、子どもたちの“夢”と“希望”を育みます。

野球で、地域社会の“街づくり”と“人づくり”に貢献します。

野球の力で。」

この球団理念とカジノ賭博事業とは絶対に相容れないものである。

プロ野球は野球賭博問題やチーム勝敗に絡む現金授受問題で幾多の試練を乗り越えて発展してきた。2016年3月には野球賭博などを受けて「球界の浄化に全力を」とする12球団共同声明、また、オリックス選手会会長を含む12球団選手会会長連名による選手会声明が発表された。

また、日本プロフェッショナル野球協約は様々な教訓の上にたち、第18章有害行為の第180条で賭博行為の禁止及び暴力団員等との交際禁止をうたい、不正行為の事実が判明した場合は断固たる有害行為の告発を規している。

カジノ賭博にはギャンブル依存症の発生、教育、風俗環境の悪化、多重債務問題、暴力団の暗躍、マネーロンダリング、犯罪の助長などが必須である。子どもたちの”夢”と”希望”を育むプロ野球とカジノ賭博は正反対に位置するものである。

オリックス バファローズの素晴らしい球団理念、幾多の苦難を乗り越えて作られてきた野球協約をふみにじる、このたびのアメリカMGMとオリックス共同体のカジノ賭博事業への事業者としての参加は、プロ野球を愛しみ、発展させてきたオリックス・バファローズのファン、懐かしの近鉄バファローズファン、すべてのプロ野球ファンを裏切るものである。

オリックスがカジノ賭博事業から直ちに撤退することを強く求めるものである。ここに決議する。

2020年3月14日

大阪いちょうの会（大阪クレサラ・貧困被害をなくす会）第29回定期総会